

0. 登録番号 d-012

1. 提案のタイトル

Cascade of Wetland Habitat 臨海都市の環境装置

2. 提案の趣旨

大阪の臨海部は大都市圏を背後に持つ閉鎖性内湾で、沿岸開発や生活排水の流入により自然環境に大きく負荷が掛かっている。また、気候変動による自然災害リスクも高まる中、万博会場予定地となる夢洲の生態的ポテンシャルを活かすようなランドスケープ的思考に基づく基盤整備の必要性を感じ、提案に至った。

提案の骨子は大きく4つある。1つ目は水際線の自然環境再生であり、グレーインフラに覆われた都市部の水際に自然的要素を挿入していく。2つ目に富栄養化水域の自浄作用を向上させるとして、浄化槽の処理水を生物浄化で水質改善した上で海に放流する。3つ目は減災効果の高い護岸整備である。土地利用面積の減少という経済性に依らず、傾斜が10%にも満たない非常に緩い傾斜を持つ堤防を造成する。4つ目が都市施設のエコロジカルネットワーク化であり、野鳥園に準ずる生態的ポテンシャルを持つ夢洲の環境を評価し、大阪湾の埋立地におけるグリーンコリドーの形成に寄与する。

具体的なデザインとして、万博会場におけるボロノイパターンの幾何学性を活かしながら水際線までをグラデーショナルに馴染ませていく。会場で排出される汚水処理水や雨水をテラス状の水盤に流し込み、水生植物のカスケードを流しながら水質改善を図り、そのまま海へと放流する。テラス地形は土羽とフトンカゴの小段で造成し、波の侵食や地震により受けた被害の影響を小さく留める。計画対象とした範囲を地形、植物、機能（万博会場およびその後の開発との関係）の観点からゾーニングし、利用、観賞、自然回復など目的性を持ったエリアを設定した。

大阪万博は、これまで成長モデルを歩んできた大都市において、将来的には縮退を射程に見据えつつ成熟化を図る転換点の契機であり、堤防という都市施設が夢洲に棲む生き物の受け皿となる環境装置となることが提案のコンセプトである。

3. アピールポイント

本コンペは万博会場となる夢洲を対象としているが、本提案は都市臨海部や閉鎖性水域において応用できるものと考えている。